

人のために貢献できる、一流のフィットネスビジネスマンになるために

「一流のフィットネスビジネスマンになりたい」。そう語るのは、株式会社ハイパーフィットネス、ココカラ港南台店マネージャーを務める高柳聡史さん。インタビューを通して彼が人のために働くことがやりがいということ強く感じた。どんな想い、考えをもって、働いているのか迫っていく。組織で働く人や組織をまとめる人にはとても参考になろう。

目指すは一流の フィットネスビジネスマン

高柳さんは現在マネージャーとして、インストラクターとしてレッスンなどの現場業務、あすウェルオンライン(オンラインフィットネス)の新規立ち上げや他店舗の若手マネージャー代理の育成フォローなどの店舗運営業務、店舗に関わるすべての業務を行っている。

キャリアのスタートは、サッカーをしていたことで身体づくりに興味をもち、周りにトレーナーがいた影響で、トレーナーを目指しフィットネスクラブでアルバイトを始めたことがきっかけだ。そのフィットネスクラブでの仕事は楽しく、店舗をまとめている社員に憧れを抱き、「自分もフィットネスクラブの社員となり、店舗マネージャーとしてクラブをまとめていける一流のフィットネスビジネスマンになりたい」という目標ができた。様々な情報があるなかで、本誌編集長である古屋に聞けば、フィットネス業界を客観的に見て助言していただけると考え、電話したという。「当時、学生の私に心置きなく答えてくださり、助けていただきました」。教えていただいた情報をもとに、数ある会社の中で、若くして様々な経験と挑戦ができる環境があり、自分を成長させるにはここしかない、ハイパーフィットネスに2008年入社。

トレーナー業務や施設管理、集客などの運営業務、あすウェル青葉台店新規立ち上げのサポート業務を経て、入社から6年経った'14年にマネージャーチャレンジ制度(日々の業務から姿勢、数値目標達成など選抜された人のみが挑戦できる)に挑戦し、マネージャー代理業務を経て、'18年フィット



高柳聡史さん

株式会社ハイパーフィットネス
フィットネス&スパ ココカラ港南台店
マネージャー

Close up 人物

Personal Profile

◆たかやなぎ・さとし
大学時代、フィットネスクラブでアルバイトを経験し、そこで働く社員に憧れを抱く。自分もそうなりたくて2008年株式会社ハイパーフィットネスに入社し、トレーナー、レッスンなどの現場業務や施設管理、集客などの店舗運営業務など様々な仕事を経験。'09年あすウェル青葉台店の新規立ち上げを経験。'14年からマネージャーチャレンジ制度を経て、'18年憧れであったマネージャーとなり、ココカラ港南台店に配属。現在は、店舗マネージャーとして現場から店舗運営まで店舗に関わる全ての業務を行っている。

ネス&スパココカラ港南台店のマネージャーとして正式に業務を開始。

仕事をする上で大切にしている考え方は、何事にも全力で真摯に取り組む

こと。

一般スタッフの時は、自分のことで精いっぱい周りが見えていなかったが、「さぼってしまうと部下やお客さまにも伝わり、影響を及ぼしてしまうので、大切にしている」とマネージャーになってから特に考え方が変わったという。

マネージャーの役割、求められる能力についてうかがうと、「店舗の責任者なので、人、施設、お金の面など施設のすべてのことを把握する必要がある役割、必要な能力は仕事に真摯に向き合うことを前提として、個人的にはバランスだと思っています。スタッフを育成する際に強く言いすぎても弱すぎてもダメですし、運営業務の際にも、色々な挑戦をしてきたが一人で突っ走っても仲間がついてこなかった経験もあり、人の気持ちや行動のバランスをみて動く能力は大事だと思います」。

挫折を経て得た学び

高柳さんは、マネージャーチャレンジ制度を活用し、実際にマネージャー業務を始めた頃、ターニングポイントとなる挫折を経験したという。「一緒に働いていた部下の社員がほかの道を選択し退職してしまったことがとても残念でした。私自身が退職する直接的な原因ではなかったのですが、部下に働く環境のなかでの楽しさ、やりがいをつくるのがマネージャーとしての仕事なのにそれができなかった無念さがとても残りました。それ以降どうすれば人が辞めない前向きなチームをつくれるかを考えるようになりました」と高柳さんは語る。

この経験を通して、「部下との信頼関係」をどうつくっていくかを意識して行動したことが2つあるという。

1つめに、「コミュニケーションを取りながら、一人ひとりをよく見ること」。人と向き合い、仲間がどんな時にモチベーションが上がるのか、困っているのかなど、社員がどんな考えを持ち、行動しているのかをよく観察するようになったという。

2つめに、「部下の目線に立って物事

を一緒に考えること」。事務所に座っているだけのマネージャーの指示は心から受け入れられないと考え、現在も週4本のレッスンをもち短時間でも現場にも立ち、現場で実際に見て感じたことを指示することにした。部下と同じ目線、気持ちの共有ができ、「信頼」が生まれしっかり聞いてくれるようになったという。

この「信頼関係」があることはチームで働く上で大切な根幹となり、褒めたり叱ったりする際に、相手に響く。それは、「自分のことをよく見て知ってくれているマネージャーに言われているから」だと考える。そして、「部下との信頼関係が作れるようになってからは、モチベーション高く働くようになり、私の下で退職した部下はほとんどいなくなった」という。高柳さんは挫折した経験から得た学びを活かし、今も信頼関係をいかに作れるかを常に意識しながらマネージャー業務に励んでいる。

人のために貢献できることがやりがい

株式会社ハイパーフィットネスでは、各店舗のマネージャーに多くの権限が委譲されており、まるで会社の社長のようにどのようなクラブにしていけるかを決めることができる。そのためクラブの経営方針はマネージャーの裁量によって大きく変わる。色んな取り組みにチャレンジし、チームとして目標を達成できた時はすごくやりがいを感じるという。

コロナ禍でマネージャーとして高柳さんが取り組んだ施策について教えていただいた。

「コロナウイルス感染拡大の影響により会員数が減少してしまい、特に港南台店は年配層が多いマーケットでもあったことから多くの会員さまにリスクを感じさせてしまい退会してしまう危機がありました。コロナが原因で退会してしまった年配層のお客さまがすぐに再入会していただくことは難しいと考え、会員の分析をしていくなかでU30会員8,500円/月では若年層の継続率が低く、収入の少ない学生年代が

フィットネスを続けにくい状態であることを見つけました。そこで、近年のボディメイクブームにより若年層が興味を持ちやすいフリーウェイトエリアを拡張、充実させ、新たな価格帯として安価な5,500円/月のU23会員の導入を同時に行いました。コロナ感染の重症化リスクが低い若年層はコロナ禍においても入会反応があり、会員数を浮上させるきっかけとなりました。この取り組みは、計画から導入まで各社員とも話し合い、それぞれ担当業務を割り当て、チーム全員で達成できた時は、とてもやりがいを感じました」。そう笑顔で語る。

課題を解決するために、全力で真摯に向き合い、一人ひとりを観察し役割を与え、コミュニケーションを取りながら、バランスを見て、チームで目標を達成する。会社の様々な挑戦ができる環境と高柳さんのお客さまやスタッフのために貢献したいという意欲が合わさり、マネージャーとしてこのような結果が残せたのではないだろうか。

見据える先はより多くの人材育成

コロナ禍で会員減少が続いており、なかなか復活の兆しが見えないなかで、少しずつでも会員数を回復させるための施策を考えては試行錯誤を続けている。高柳さんは「大きすぎる目標は立てず、課題を見つけては解決、達成へ向けて行動し、改善を続けることを繰り返している」という。

今後の目標についてうかがうと、ここでも人のために頑張りたいという貢献意欲を感じた。「マネージャーとして仲間が退職してしまった経験から人が辞めない前向きなチームづくりに励んできました。今後は店舗という枠組みにとらわれず、他店舗も統括できるようなエリアマネージャーとしてより多くの人材育成に努めたいと考えています。特に若手社員はどんな気持ち、やりがいをもって仕事をしたらいいのかわからなくなることが多いと感じます。そんな時に方向性を示してあげるのが、マネージャーの役割だと考え、この会社で多くの部下を見られるような



立場となり、モチベーションを上げて仕事に臨む社員を増やしていきたいです。また入社時からの大きな目標は、マネージャーとして新規店舗の立ち上げができる存在になりたいです。コロナ禍で特にゼロから総合型フィットネスクラブをつくることはとても難しいことですが、そんな高い壁を乗り越えて成功できたときには、さらに大きく成長できるはずですし、会社の発展にも貢献できると信じています」と高柳さんは未来を見据えている。

マネージャーとして常に「人のために」という意識を持ち、全力で真摯に仕事に取り組む姿勢は、確実に部下との信頼関係が生まれ、人材が育っているはずだ。そんな店舗をまとめている高柳さんはすでに、自身が憧れ目標にしていた「一流のフィットネスビジネスマン」なのではないだろうか。そして今後も人材育成を通して一流のフィットネスビジネスマンが育っていくことに期待したい。

高柳さんの仕事道具 手帳とボールペン



入社以来ずっと手帳はLACONIC、特に一週間のスケジュールが掲載されているものを愛用している。ボールペンは消せるボールペンでおなじみのフリクションボールを使用。